

令和3年度

学校経営方針

台東区立根岸小学校長 小西 祐一

新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う全国一斉臨時休校の中、令和2年度がスタートした。「社会に開かれた教育課程」をテーマに、新しい学習指導要領が全面実施を迎えたが、昨年度までに計画してきた主体的・対話的で深い学びの実践は、その多くが実施困難なものとなった。各学校では、マスクの着用と手洗いの徹底、アルコールによる消毒など安全を最優先に様々な対策がとられ、運動会等の学校行事の中止や、宿泊行事を含む校外学習の中止、ゲストティーチャー等講師を招聘した学習の中止など教育活動への影響は甚大で、教育課程を再構築した。また、日常の教育活動についても、話し合い活動の制限や共用する教材の使用方法の見直し、身体接触のある活動の制限等の配慮が求められた。

新型コロナウイルス感染症は、いまだ終息には至っておらず、令和3年度の教育活動も困難な中でのスタートとなる。まさに、将来の予測が困難な時代の中、学習指導要領が示す理念を実現するために、柔軟な考え方のもとで授業改革に取り組んでいかなければならない。指導方法については新しい学力観のもと、これからの時代を逞しく生きていく力を一人一人が身に付けていくことができるよう、一人1台タブレットPCの積極的かつ有効な指導法を見出し、組織的・計画的に学習活動を推進する。

またその一方で、このような非常事態だからこそ、豊かな心の育成については道徳科を中心により一層充実したしどろが求められる。本校では、一昨年度より台東区教育ビジョンの一つである「こころざし教育」を受け、こころざしをはぐくむことを目指した道徳科の授業づくりに取り組んできた。一人一人がよりよい人生を歩むために、「自分なんのために生きるのか」「自分は何をして生きるのか」を明確にもっていることが望ましい。それは、人生のテーマでもあり容易に見つけられるものではないが、自分自身の行動を振り返り、自分自身の心を見つめる活動を通してメタ認知力を育み、変化が激しく多様な社会の中にあっても、自分自身が生きるべき道を見つけ出すことができる力を身に付けたいと考える。今年度も昨年度と同様に、こころざし教育を学校経営の中心として学習活動を展開する。

ところで、本校は明治7年に創立して以来、地域が誇る学校として常に範を示す使命が受け継がれている。創立148年目を迎え、私たちはその歴史と伝統を守りながら、新しい時代を切り拓く人間の育成を目指して自らを変革していかなければならない。幸い私たちには諸先輩方が残した多くの教育実践がある。私たちはこれらの財産を生かし新たなカリキュラムの開発と授業の創造に全力で取り組み、「教育立国」であるわが国の国家戦略の一翼を担うべく力を尽くしていく。

I 基本理念

(1) 公立学校としての役割と責任を果たす

公立学校は、保護者・地域の期待に応えるものでなければならない。また、公立学校として、国の定めた法令や基準等に基づいた公教育を意図的・計画的・組織的に行うことによって、知・徳・体の調和のとれた心身共に健やかな人間の育成を目指すことが求められる。さらに、国家・社会の形成者として必要な

資質を養うことも重要な役割である。そのためには、規範意識の醸成など、社会において自立的に生きるための基礎・基本を身に付けられるよう発達段階に応じた適切な指導が必要である。これら公立学校が担う役割と責任を果たすために、教職員が一丸となって教育の質を高められるよう全力を尽くし、学校教育目標の達成に向けて児童一人一人の確かな成長を実現することが何よりも重要である。

(2) 本校の歴史と伝統を継承し発展させる

本校は明治7年2月22日に開設され、本年度148年目を迎える歴史と伝統のある学校である。本校の歴史は常に研究活動と共にあり、その時代の教育課題に応えるべく教育研究活動を展開し、「研究の根岸」として多くの成果と実績を積み重ねてきた。

本校がそのような歴史と伝統をもつ学校であることは誰よりも地域がよく知るところであり、本校に寄せる期待は絶大である。保護者や地域は、常に小学校教育をリードする存在として根岸小学校を誇りに思うとともに、本校の教育の内容や方法について強い関心を持ち、高い水準の教育を求めている。私たちは、「研究の根岸」の火を絶やすことなくさらなる発展を目指し、児童の成長した姿をもってその期待に応えていかなければならない。

(3) 時代・社会の要請に応える

変化の激しい現代の社会において、求められる資質・能力も当然変化してきている。21世紀を生きるために必要な力とは何か。また、その力を身に付けるためにはどのような教育が必要か。私たちは常にその問いの答えを探して、よりよい教育の創造に力を尽くしていく。本校では、「根岸で学び、世界にはばたく」をスローガンに、グローバルに生きるために必要な資質・能力を育てるとともに、自らの「こころざし」を探求し、時代・社会に応えることができる人材の育成を期して教育の充実を図っていく。

II 本校の教育目標

『 **みがく** **かかわる** **未来をひらく** 』

●すなおな子（基底） ●よく考える子（知） ●なかのよい子（徳） ●たくましい子（体）

●すなおな子（基底）

- ・学習自立、生活自立、精神自立を目指して、規律の徹底を図る。

●よく考える子（知）

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改革とカリキュラム・マネジメントの実践。
- ・各教科の特性を生かし、学ぶ喜びや考える楽しさを十分に味わえる授業を創造する。

●なかのよい子（徳）

- ・縦割り班活動を充実させ、異年齢交流を通して豊かな心を醸成する。
- ・道徳教育の全体計画をもとに道徳科の充実を図るとともに、こころざし教育を推進する。
- ・いじめ防止と早期発見に努め、組織的に指導に当たる。

●たくましい子（体）

- ・体育の授業の充実と体育的行事や体育的な日常活動を充実させ、体力の向上と健康の増進を図る。

Ⅲ 教育内容・方法にかかわる経営方針

(1) 各教科等の指導の充実

- ①新学習指導要領に示される各教科の目標や内容の理解を深め、児童に教科の特質を十分に味わわせるとともに、確かな力を身に付けさせることができるよう指導の充実を図る。
- ②学習の始めにはめあてを明確にし、授業の終わりには振り返りを行う。
- ③構造的な板書を工夫し、ノート指導を徹底する。
- ④第5・6学年においては教科担任制を導入し、より専門性の高い学習活動を展開する。

(2) 教育環境の整備・充実

- ①言葉遣いの指導を徹底するなど、言語環境を整える。
- ②教室は子供の生活の場である。日々、安全点検を行うとともに、常に整理整頓を心がける。
- ③児童のお手本となる整った文字による板書に心がけ、文字を丁寧に書くよう指導する。
- ④学習の足跡が分かり、自分自身の成長を確かめられる教室掲示に努める。

(3) 英語教育の充実

- ①第3・4学年外国語活動年間35時間、第5・6学年外国語科年間70時間を確実に行う。
- ②全教員が自信をもって外国語の授業を行うことができるように、研修会を実施し、英語並びに外国語教育のスキルの向上を図る。

(4) 道徳教育の充実

- ①「特別の教科 道徳」を要に、道徳教育全体計画を基に全教育活動を通して豊かな心の育成を図る。年間35時間の道徳科の授業を充実させるとともに、各教科や行事等と関連させ、指導計画並びに別葉をより精度の高いものに更新していく。
- ②道徳の基礎的な授業の組み立て方を基としながら、「考え、議論する道徳」の授業を目指す。
- ③「特別の教科 道徳」の評価を適切に行う。

(5) 規律ある学校生活

- ①規律は、個の自立を支えるとともに集団としての成長の基となるものであり、指導の徹底を図ることが大切である。また、学校として共通の認識で指導にあたることは言うまでもない。
- ②語先後礼を徹底し、礼儀正しく気持ちのよい挨拶ができるようにする。
- ③「根岸小きまり」を徹底させるほか、「根岸八か条」を意識して学校生活を送るよう指導する。

(6) 主体性を育てる教育活動の工夫

- ①教育活動全般にわたって主体的に取り組むことができるように、めあてをもたせたり、解決方法を考えさせたりする。
- ②クラブ活動では「この指とまれ」方式を取り入れ、主体的に計画・運営できるように指導する。
- ③ノーチャイムを継続し、時間を意識して自ら行動できる自立した児童の育成を図る。

(7) 地域の人的・物的資源の開拓

- ・生活科や総合的な学習に時間を中心に、地域にあふれる豊富な物的資源を教材化し、6年間を通して系統的に学習できるよう指導計画の見直しを行う。